



二月 月次祭 神殿講話

本日は二月月次祭にご参拝くださり誠にありがとうございます。大教会長様には来月、三月の月次祭にご参拝いただきたいとお願いをさせて頂いております。

北海道でも雪まつりが開催され大勢の方がお越しになっています。私は雪まつりにさほど興味はないのですが、子供の時に一度は見えてみたいなと思っておりました。確か出直された梅淀分教会の真鍋富貴子さんが教会に住み込みをされていた時に、せっかく北海道にいらるのだからと言われ、母と私たち兄弟と真鍋富貴子さんで雪まつりを見に行ってきました。

田舎育ちですから人混みの中、迷子にならないように母や真鍋富貴

発行所
天理教祝梅分教会
千歳市祝梅 598
☎0123-29-2055
復刊第三十五号

子さんに必死に付いて行った記憶があります。

また札幌駅も混んでいてここでも迷子になったら帰れなくなると思いながらの一日でした。

よく考えてみれば私たちも日々歩んでいる中で、将来が不安になることがあるのではないかと思いません。迷子になりそうな不安を感じることもあるかと思えます。

雪まつりで母を見失いようにしようとした事や弟や妹が迷子にならないように時には手を繋いだり、声を掛けたりしてと歩いていた事も、我々の歩みともしかしたら似ているのかもしれないと思うのです。

私たちの親は親神様であり、人間は皆兄弟であると教えて頂いています。

だからこそ、親神様の存在を見失わないように、迷子にならないようにお互いが協力しながら歩むことが大切だなど思うのです。

確かに目に見えない神様の存在を知ることは難しいかもしれませんが、

しかし、「親神が手を引いて連れて帰ったのやで」という言葉信じ、「何を聞いても さあ、親神の御働きや、と思うよう」という言葉で心を落ち着かせ歩ませていただきますしよう。

教祖はひながたの道を、まず貧に落ちきるところから始められ、どのような困難な道中も、親神様のお心のままに、心明るくお通り下されました。

諭達第四号にも

「どんな中でも親神様の大きいなる御守護に感謝して通ることを教えられ、」

「成ってくる姿はすべて人々を成人へとお導き下さる親神様のお計

らいであると諭され、周囲の人々を励まされた。」

「ちばを慕い親神様の思召に添いきる中に、必ず成程という日をお見せ頂ける。」と記されています。どうか心倒さず、ああなるほどと思える日がくることを信じてたすけあつて過ごしていきましょう。

4月18日は、226歳の
教祖のご誕生日です。
おちばでは教祖ご誕生
祭がつとめられます。





布教師の 真の喜び

祝梅分教会
三代会長 高橋美津志
《前編》

た後「これが伴の身元引き受けの紙だ：頼むよ」の言葉をつけ加えて、薄い一枚の紙を私の手に握らせて早々に引き上げて行った。

私の返事など聞こうともしない強引さに、その人と一面識もない私は、ただただ呆れながらも、成り行きのことの重大さに身が引き締まる。人生の敗残者だと酷な烙印を押されて世間から蔑まれていくニコヨン、バタヤ、こんな人たちのたむろする東京は十条の堤の片隅であり、単独布教中の昭和二十九年十一月十一日の夜のことである。

握らされた一枚の紙も電燈のつかない悲しさ、闇の中では読むことすらできない。時間が経つに従い、一ケのコツパンでさえ恵まれる日が少なく、拾った干麺一本を三日も、幼児が飴を惜しように嘗めるように嘗めて飢えをしのごぎ、水腹で日を過ごすことの多い道中の今、人の身どころか我が身が食べられないわびしい現実を思えば、同じバタヤで暮らしているからと言う理由だけで、身勝手な

ことを一方的に押し付け、返事も聞かないで帰ったあのニコヨンが次第に憎らしくなってきた。「ばかばかしい、必ず明日は断ろう」と心で誓った。

なのに、どうしてか、この問題が心のしこりとなって寝付かれない。「お前は何のために故郷を離れて、はるばる東京に単独布教に来たんだ。人を救けることなら、何でもすると誓ったのではなかったか。青年を引き受ける」「いやいや、待て待て、刑務所帰りでは相手が悪い、それに飯を食べさせてやるのができない。断れ、断ろう」心は微妙に揺れ動いて自問自答の繰り返しで溜息が出る。

その内にふと『成ってくるのは天の理』の言葉が浮かんで強く心をとらえた。求めもしない、願いもしない、注文もしないのに、知らず知らずのうちに成ってくるもの現れてくるもの、それは間違いないその人の持つ因縁の現れ。だからその成ってきたり、現れてきた理から逃げない、また避けないうで素直に理を受けて心一杯一杯つとめるところに因縁の納消が

ある。だが成ってくる理にもいろいろある。常に徳を積み、人を救うのに尽くし捧げている人に現れるもの、成ってくるものは、悪い因縁から良い因縁へ切りかえてやろうとされる神様の深い思召しであり、大難を小難無難へ導かれる親心であろう。

自己本位の考え方、自分中心の気ままな歩みが続ける人に現れ成ってくるものは、切りかえられない悪因縁そのままの姿ではなからうか。

私の因縁を見定めて因縁を変えてやろうと与えられた青年なら「食べられる食べられんと案じる人間思案を捨て、成るがままに神様にもたれて、青年の世話取りをしよう」まさに清水の舞台から飛び降りるような勇気で案じに案じた心を振り切り、心を定めた。

翌朝は一路、刑務所に。青年の身柄を引き取り、代々木の保護観察所の了解を得て、地区の保護司に相談の後、ようやくにして小屋に帰り着く。一坪半弱の小屋の板間に座れば、タルキの柱に打ち付

「ワシはあんたと同じここのバタヤの住人だが、死んだ前の母ちゃんは天理教だった。そこで頼みにきたんだが、伴が酒の上からの喧嘩で、相手をノミで刺し殺してしまつた。その後、服役して、刑務所から五年ぶりで出てくる。私は今このバタヤで、一緒になった母ちゃんがいる。その母ちゃんに二人の連れ子もいる。今更、伴が刑務所から出てきても、迷惑なことや。人を殺した伴は、伴とも思っていない。だから、天理さん、あなたに伴をやるからもらつてくれ」と酒臭い息を吐きながら、無慈悲で身勝手な言い訳をしやべつ

けた古板の節穴より初冬の夜の寒気は肌身をさして震えを起こす。

「刑務所から五年ぶりに、故郷の東京に帰ってきたこの青年に、今の私には出所祝いとして何か一つでもしてやれるものがあるだろうか。情けないが、布団一枚、温かい茶一杯も与えることができない」と思う切なさには暗く途方に暮れる。

だがやがて行き詰まったら教祖の「ひながた」を偲べ、必ず道は開かれると布教の家で肩を叩いて激励してくれた先輩の言葉が胸の内に蘇ってきて、私の頭の中では、いつしか聞いた教祖の「ひながた」のひとこまひとこまを慕い偲んでいた。

「教祖はやつと手にした米でさえ惜し気もなく乞う人に与え、汚い乞食の子にも乳房を含ませて「大事に育てなされや」と優しく母親をいたわられたと言う。

常に相手の立場になって与えられる深い思いやりの親心、この親心が教祖の「ひながた」ではなからうか。ないものを求めて愚痴をこぼさないで、今あたえられるもの

を喜び、そのものを施す。これが道の生命ではないだろうか。

無一文の私にも今ここにシャツ、ズボンハッピが与えられて肌につけてある。これを思い切った脱ぎ、青年の衣服の上から来てもらい、せめて少しでも暖かくして休んでもらおうと思った。

そして『ふと浮かぶは神心、あとで濁すは人間心』と、教えられるように、折角よいことを浮かばしってもらうも、いつしか時が経てば我が身可愛い人間思案が先に立ち、定めた心を消してしまふ。

そんな弱い心の持ち主の私だ、すぐこの座で実行に移さねば心変わりをする。さあ実行だ。

「二日前から東京教務支庁と言う所へ病人が救かるようにお願いづとめの裸参りをしている。だから朝まで帰れない。この脱いだ肌着、シャツ、ズボン、ハッピを、その服の上から着て休んでいておくれ」と乱暴な短い言葉で勢い良く脱いだ肌着を、青年の膝の上に置き、越中ふんどし一枚の裸でデビ下駄を引きずりながら小屋を後にし、人目を避け気を配りながら

教務支庁へ。門前のコンクリートの上に正座して、青年の身の加護を願ひ、おつとめをした。

身を寄せるところのないまま一夜を染井墓地で明かす羽目になったが、初冬の寒気に休みなく肌をなでさすり一睡もしないで夜は白々と明けて朝を迎えた。(つづく)

※バタヤ・・廃品を回収して生活する人。

※ニコヨン・・日雇い労働者

布教の家愛知寮 週間録

◎一月二十日 高橋悟志

一月に入り、寒い日もありますが、たまに暖かい日もあり、ありがたい気持ちでいっぱいです。卒業までの残りの日数もわずかとなり、寂しさも早く解放されたいという気持ちで半々です。寮生活に悔いを残さないよう、一生懸命歩かせていただこうと思います。

今月は「お節会団参」と「春季大祭」の団参の二つがあり、一人でも多くの人に帰ってもらおうと頑張っています。私自身としても一人でも多くの方にお願いが帰っていただき、別席を運んでいたことと通い先をはじめ、いろいろな方に声を掛けさせてもらっています。しかし、帰参だけにとらわれず、しっかりとその方に喜んでいただけるおたすけも頑張りたいです。

◎一月二十八日 高橋悟志

初帰参の方をお連れし、初席を運んでいただきました。ありがたい限りです。



『苦 労』

◎早春の陽ざしの下で、秋蒔きの柔らかい
麦を踏む農夫を昔はよく見た。
麦は踏まれて強く育ち
風に倒れることもなく豊かに稔る。

◎考えると、人間も同じだ。
芳労に踏まれて人は強く育つ。
背負いきれない苦労を
神は人に与えないというのに
悲しいかな苦労に負ける人がいる。
苦労は人が育つ肥料である
有り難苦労を受けとめて強く生きれば
苦労の中に真の喜びを知る日がくる。

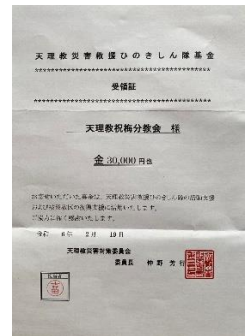


若人会総会

- 【日 時】3月24日(日)
10:00~11:00
(受付9:30~)
- 【参加御供】200円
- 【内 容】祭儀式、おつとめ
(すわりづとめ、よろづよ八首)
- 【そ の 他】おつとめ参加者は教服またはハッピー
白ソックスの準備をお願いします。

御 礼

祝梅分教会では、令和6年
能登半島地震に際し、天理教教会
本部の「天理教災害救援ひのきし
ん隊基金」に3万円を寄付しまし
た。総額10万円になります。
基金にご協力いただきありがとう
ございました。 私たちも遠い地
より復興を願っております。



あとがき

美津志会長さんは身上や事情に
悩んでいらっしゃる方に「それは
こうだよ」とか「それはこうした
ら良いのだよ」と、その場でお悟
しされ、皆さん御守護いただかれ
ていました。美津志会長さんとは
次元が違うから、どんなに頑張っ
ても私には出来ない、最初から
諦めて何もしようとしない私でし
た。

でも、美津志会長さんが今月
「梅香」中のお救けのお話を聞か
せてくださった時「青年を預かる
事になった時、どうしたら良いか
と一晩中一生懸命考えたんだ」
と、仰ったのを聞いて「まずは時
間が掛かってても、その方がどうし
たら救かっていただけなのか一生懸
命悩んで考えることなら出来るか
なあ」と、心が前向きになる事が
出来ました。
二十年以上、悩む所で足踏み状
態の私です…。